

●痛みのグループディナー開催報告

平成 21 年度の痛みのグループディナーは、8 月 1 日に IUPS2009 の痛みの whole-day symposium ‘Comprehensive approaches to pain—from molecule to organism’ の終了後に、同日の 5 時半より、ホテルフジタ京都のパロンルーム（講演会）および夷川邸（会食）で開催された。whole-day symposium の直後の会なので、そのスピーカー及び同伴者にも参加していただき、また生理学会会員以外の参加者もあり、参加者は計 34 名であった。会の始めに、吉村 恵先生（熊本保健科学大学教授、前九州大学医学研究院教授）より、“Multiple electrophysiological approaches to understand sensory transmission in the spinal cord”と題して、caged glutamate をレーザー光によって局所的に uncage させて、free になったグ

ルタミン酸によって神経細胞を活性化し、パッチクランプした脊髄後角表層細胞が入力をどこから受けているかを明らかにする最新の方法まで含めて、脊髄における感覚情報伝達解析法について講演があった。引き続いて行われた高膳での純日本式の会食では、畳に座る苦痛と戦いながらも大変和やかな雰囲気の中で、シンポジウムで聞き逃したことを尋ねたり、研究方法について話しあったりと、あっという間に 2 時間が立ってしまった。近い将来の再会を期して解散した。次年度の世話人は後日話し合わせ、東北大歯学部のエリカ教授にお引受け頂けることになった。

痛みのグループディナー世話人 水村和枝
(名古屋大学環境医学研究所)